

バイオマス活用アドバイザー プロフィールシート

	【名前】 稲葉 涼
	【現職（所属）】 J&T 環境株式会社 技術本部技術部 (兼)食品リサイクル事業部
【略歴】 令和元年 3 月 東京薬科大学大学院 博士前期課程修了 令和元年 4 月 J&T 環境(株)入社 同年 5 月より(株)J バイオフードリサイクルへ出向(メタン発酵を利用した食品リサイクル事業会社) 令和 4 年 4 月 出向から戻り、現在	
【得意分野】 <ul style="list-style-type: none">・メタン発酵に関する研究（生化学、バイオインフォマティクス）<ul style="list-style-type: none">- 学術論文実績 Inaba, Ryo, et al. "Metatranscriptomic evidence for magnetite nanoparticle-stimulated acetoclastic methanogenesis under continuous agitation." Applied and environmental microbiology 85.23 (2019): e01733-19.・食品リサイクル事業会社の会社運営<ul style="list-style-type: none">- 社内スタートアップの新規事業会社にて事業運営業務全般（損益管理、操業管理、技術開発、EMS 認証取得、FIT や廃掃法関係の行政申請）に従事- 令和 4 年 2 月操業開始の東北バイオフードリサイクルの立上げに参加・メタン発酵残渣の有効利用方法の検討<ul style="list-style-type: none">- 農業法人と協力してメタン発酵残渣の肥料利用の方法を検討中	
【バイオマス利活用に関する取組・一言コメント】 <p>SDG's 分野が注目され、再生可能エネルギー需要が高まる昨今において、バイオマスは循環資源やエネルギー資源として認知が広がっていると感じます。しかし、利用の現場には課題が多く存在し、普及拡大が進みにくい現状があります（課題：廃掃法による規制が厳しく構想から事業開始まで時間がかかる、プラントの設置&運用費用が高い、効率的な回収スキーム構築が難しい、現場に専門人材が少ない 等々）。バイオマスの利用普及拡大は一企業の活動のみでは実現不可能のため、時には社外の人材と協力して、前向きに進めていきたいと考えます。</p> <p>今後の地球環境保全に危機感を持ち、持続可能な社会の実現を夢見て、バイオマスの普及拡大をライフワークとしつつ、社会課題の解決に貢献していきたいと思えます。</p>	